

【 14 】 2026 年度 大学院シラバス

<p>専攻分野/コース (英文名)</p>	<p>消化器内科学 (Gastroenterology)</p>
<p>研究指導教員</p>	<p>立石 敬介</p>
<p>研究・教育の概略</p>	<p>研究マインドを持った臨床消化器内科医の育成がゴールである。 疾患をベースに病態理解を深めることからスタートし、この点については消化管疾患、肝臓疾患、胆膵疾患に共通した教育を行う。また、同時に近年その進歩が急である、分子消化器病分野での理解を深め、最新の分子標的治療にも対応できる内容とする。 各疾患ごとの講義、カンファレンスを中心に、研究内容を理解するための抄読会、研究のカンファレンスへ出席していただき、消化器疾患病態との関連を学ぶ。 当授業項目は卒業認定および学位授与に関連する。</p>
<p>研究項目</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器病総論 2. 肝臓病態学 3. 消化管病態学 4. 消化器分子病態学 5. 消化器内視鏡学実習
<p>準備学習(予習・復習)</p>	<p>予め、下記の教科書の関連領域を読んでおくこと。 Molecular Biology of The Cell (Garland Science) Bockus Gastroenterology (Saunders)</p>

2026 年度講義シラバス (1)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学	
講義題目	消化器病総論 I - ①		必修/選択	必修
担当教員	立石 敬介	担当教員連絡先	内線 3470	
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。			
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1. 基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2. 基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	消化器・肝臓病の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。			
講義内容				
前期(回)	内 容 (出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)	
1	1. 消化管疾患の検査の進め方 ①	1		
2	1. 消化管疾患の検査の進め方 ②	2		
3	1. 消化管疾患の検査の進め方 ③	3		
4	1. 消化管疾患の検査の進め方 ④	4		
5	1. 消化管疾患の検査の進め方 ⑤	5		
6	2. 消化管運動 ①	6		
7	2. 消化管運動 ②	7		
8	2. 消化管運動 ③	8		
9	2. 消化管運動 ④	9		
10	3. 消化・吸収 ①	10		
11	3. 消化・吸収 ②	11		
12	3. 消化・吸収 ③	12		
13	3. 消化・吸収 ④	13		
14	3. 消化・吸収 ⑤	14		
15	4. 消化管ホルモン ①	15		

2026 年度講義シラバス (2)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学		
講義題目	消化器病総論 I - ②		必修/選択	必修	
担当教員	立石 敬介	担当教員連絡先	内線 3470		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。				
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。				
達成目標	1. 基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2. 基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	消化器・肝臓病の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	4. 消化管ホルモン ②	
2			2	4. 消化管ホルモン ③	
3			3	4. 消化管ホルモン ④	
4			4	5. 消化管の症候 ①	
5			5	5. 消化管の症候 ②	
6			6	5. 消化管の症候 ③	
7			7	5. 消化管の症候 ④	
8			8	6. 肝機能検査の解釈 ①	
9			9	6. 肝機能検査の解釈 ②	
10			10	6. 肝機能検査の解釈 ③	
11			11	6. 肝機能検査の解釈 ④	
12			12	6. 肝機能検査の解釈 ⑤	
13			13	6. 肝機能検査の解釈 ⑥	
14			14	6. 肝機能検査の解釈 ⑦	
15			15	6. 肝機能検査の解釈 ⑧	

2026 年度講義シラバス (3)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学		
講義題目	消化器病総論Ⅱ-①		必修/選択	必修	
担当教員	中原 一有	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	1単位 (前期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	興味ある症例・問題症例について検討し消化器・肝臓疾患の病態を深く理解する。				
講義計画	興味ある症例・問題症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を理解する応用力を身につけ、管理方法および治療方針を検討する。				
達成目標	1. 消化器・肝臓疾患について病態を理解する応用力を取得し、理論的に説明できる。 2. 消化器・肝臓疾患の病態に基づき、最新のエビデンスを導入した治療・管理を計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	肝胆膵疾患の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	7. 肝・胆の画像診断 ①		1		
2	7. 肝・胆の画像診断 ②		2		
3	7. 肝・胆の画像診断 ③		3		
4	7. 肝・胆の画像診断 ④		4		
5	7. 肝・胆の画像診断 ⑤		5		
6	7. 肝・胆の画像診断 ⑥		6		
7	7. 肝・胆の画像診断 ⑦		7		
8	8. 膵機能検査の解釈 ①		8		
9	8. 膵機能検査の解釈 ②		9		
10	8. 膵機能検査の解釈 ③		10		
11	8. 膵機能検査の解釈 ④		11		
12	8. 膵機能検査の解釈 ⑤		12		
13	9. 膵の画像診断 ①		13		
14	9. 膵の画像診断 ②		14		
15	9. 膵の画像診断 ③		15		

2026 年度講義シラバス (4)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学		
講義題目	消化器病総論Ⅱ-②		必修/選択	必修	
担当教員	中原 一有	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	1単位 (後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	興味ある症例・問題症例について検討し消化器・肝臓疾患の病態を深く理解する。				
講義計画	興味ある症例・問題症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を理解する応用力を身につけ、管理方法および治療方針を検討する。				
達成目標	1. 消化器・肝臓疾患について病態を理解する応用力を取得し、理論的に説明できる。 2. 消化器・肝臓疾患の病態に基づき、最新のエビデンスを導入した治療・管理を計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	肝胆膵疾患の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	9. 膵の画像診断 ④	
2			2	9. 膵の画像診断 ⑤	
3			3	10. 各種病態 a. 黄疸 ①	
4			4	10. 各種病態 a. 黄疸 ②	
5			5	10. 各種病態 a. 黄疸 ③	
6			6	10. 各種病態 b. 肝不全・肝性昏睡 ①	
7			7	10. 各種病態 b. 肝不全・肝性昏睡 ②	
8			8	10. 各種病態 b. 肝不全・肝性昏睡 ③	
9			9	10. 各種病態 c. 門脈圧亢進症 ①	
10			10	10. 各種病態 c. 門脈圧亢進症 ②	
11			11	10. 各種病態 c. 門脈圧亢進症 ③	
12			12	10. 各種病態 d. 肝・腎症候群 ①	
13			13	10. 各種病態 d. 肝・腎症候群 ②	
14			14	11. 各種病態 e. 肝炎ウイルス ①	
15			15	11. 各種病態 e. 肝炎ウイルス ②	

2026 年度講義シラバス (5)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学		
講義題目	消化器分子病態学 I - ①		必修/選択	必修	
担当教員	松本 伸行	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	1単位 (前期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	消化器・肝臓疾患に関する分子病態学を理解する。				
講義計画	消化器・肝臓疾患の発症機序・病態および治療を分子生物学的に、特に Genetic/Epigenetic な側面から検討する。				
達成目標	1. 消化器・肝臓疾患の発症機序・病態における Genetic/Epigenetic な因子の関与を理解し説明できる。 2. 消化器・肝臓疾患における免疫・抗体療法的作用機序を理解し説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	肝胆膵疾患の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	細胞周期 (I)		1		
2	細胞周期 (II)		2		
3	細胞周期 (III)		3		
4	細胞内シグナル伝達 (I)		4		
5	細胞内シグナル伝達 (II)		5		
6	細胞骨格 (I)		6		
7	細胞骨格 (II)		7		
8	発癌遺伝子 (I)		8		
9	発癌遺伝子 (II)		9		
10	発癌遺伝子 (III)		10		
11	癌抑制遺伝子 (I)		11		
12	癌抑制遺伝子 (II)		12		
13	癌抑制遺伝子 (III)		13		
14	発癌メカニズム (I)		14		
15	発癌メカニズム (II)		15		

2026 年度講義シラバス (6)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学	
講義題目	消化器分子病態学 I - ②		必修/選択	必修
担当教員	松本 伸行	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	1単位 (後期 1)	履修年次	1年	
テーマと目的	消化器・肝臓疾患に関する分子病態学を理解する。			
講義計画	消化器・肝臓疾患の発症機序・病態および治療を分子生物学的に、特に Genetic/Epigenetic な側面から検討する。			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器・肝臓疾患の発症機序・病態における Genetic/Epigenetic な因子の関与を理解し説明できる。 2. 消化器・肝臓疾患における免疫・抗体療法的作用機序を理解し説明できる。 			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	分子生物学的知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓞ)
1			1	細胞周期 (IV)
2			2	細胞周期 (V)
3			3	細胞周期 (VI)
4			4	細胞内シグナル伝達 (III)
5			5	細胞内シグナル伝達 (IV)
6			6	細胞骨格 (III)
7			7	細胞骨格 (IV)
8			8	発癌遺伝子 (IV)
9			9	発癌遺伝子 (V)
10			10	発癌遺伝子 (VI)
11			11	癌抑制遺伝子 (IV)
12			12	癌抑制遺伝子 (V)
13			13	癌抑制遺伝子 (VI)
14			14	発癌メカニズム (III)
15			15	発癌メカニズム (IV)

2026 年度講義シラバス (7)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学		
講義題目	消化管病態学 I - ①		必修/選択	必修	
担当教員	前畑 忠輝	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	症例に基づいて消化管疾患の病態を理解する。				
講義計画	種々の消化管疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。				
達成目標	1. 基本的な消化管疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2. 消化管疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	上部消化管疾患の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席㊟)	後期(回)	内 容	(出席㊟)
1	1. 食道疾患症例 ①		1		
2	1. 食道疾患症例 ②		2		
3	1. 食道疾患症例 ③		3		
4	1. 食道疾患症例 ④		4		
5	1. 食道疾患症例 ⑤		5		
6	1. 食道疾患症例 ⑥		6		
7	2. 胃・十二指腸疾患症例 ①		7		
8	2. 胃・十二指腸疾患症例 ②		8		
9	2. 胃・十二指腸疾患症例 ③		9		
10	2. 胃・十二指腸疾患症例 ④		10		
11	2. 胃・十二指腸疾患症例 ⑤		11		
12	2. 胃・十二指腸疾患症例 ⑥		12		
13	3. 小腸疾患症例 ①		13		
14	3. 小腸疾患症例 ②		14		
15	3. 小腸疾患症例 ③		15		

2026 年度講義シラバス (8)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学		
講義題目	消化管病態学 I - ②		必修/選択	必修	
担当教員	前畑 忠輝	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	症例に基づいて消化管疾患の病態を理解する。				
講義計画	種々の消化管疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。				
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な消化管疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2. 消化管疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。 				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	下部消化管疾患の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1			1	3. 小腸疾患症例 ④	
2			2	3. 小腸疾患症例 ⑤	
3			3	3. 小腸疾患症例 ⑥	
4			4	4. 大腸疾患症例 ①	
5			5	4. 大腸疾患症例 ②	
6			6	4. 大腸疾患症例 ③	
7			7	4. 大腸疾患症例 ④	
8			8	4. 大腸疾患症例 ⑤	
9			9	4. 大腸疾患症例 ⑥	
10			10	5. 消化管その他症例 ①	
11			11	5. 消化管その他症例 ②	
12			12	5. 消化管その他症例 ③	
13			13	5. 消化管その他症例 ④	
14			14	5. 消化管その他症例 ⑤	
15			15	5. 消化管その他症例 ⑥	

2026 年度講義シラバス (9)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学		
講義題目	肝臓病態学 I - ①		必修/選択	必修	
担当教員	渡邊 綱正	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	1単位 (前期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	症例に基づいて肝臓疾患の病態を理解する。				
講義計画	種々の肝臓疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。				
達成目標	1. 基本的な肝臓疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2. 肝臓疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	肝臓疾患の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	1. ウイルス性肝炎症例 ①		1		
2	1. ウイルス性肝炎症例 ②		2		
3	1. ウイルス性肝炎症例 ③		3		
4	1. ウイルス性肝炎症例 ④		4		
5	1. ウイルス性肝炎症例 ⑤		5		
6	2. 肝細胞がん症例 ①		6		
7	2. 肝細胞がん症例 ②		7		
8	2. 肝細胞がん症例 ③		8		
9	2. 肝細胞がん症例 ④		9		
10	2. 肝細胞がん症例 ⑤		10		
11	3. 代謝性肝炎症例 ①		11		
12	3. 代謝性肝炎症例 ②		12		
13	3. 代謝性肝炎症例 ③		13		
14	3. 代謝性肝炎症例 ④		14		
15	3. 代謝性肝炎症例 ⑤		15		

2026年度講義シラバス (10)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学		
講義題目	肝臓病態学 I - ②		必修/選択	必修	
担当教員	渡邊 綱正	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	1単位 (後期1)	履修年次	1年		
テーマと目的	症例に基づいて肝臓疾患の病態を理解する。				
講義計画	種々の肝臓疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。				
達成目標	1. 基本的な肝臓疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2. 肝臓疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	胆膵疾患の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1			1	4. 胆道系症例 ①	
2			2	4. 胆道系症例 ②	
3			3	4. 胆道系症例 ③	
4			4	4. 胆道系症例 ④	
5			5	4. 胆道系症例 ⑤	
6			6	5. 膵疾患症例 ①	
7			7	5. 膵疾患症例 ②	
8			8	5. 膵疾患症例 ③	
9			9	5. 膵疾患症例 ④	
10			10	5. 膵疾患症例 ⑤	
11			11	6. 肝・胆・膵その他症例 ①	
12			12	6. 肝・胆・膵その他症例 ②	
13			13	6. 肝・胆・膵その他症例 ③	
14			14	6. 肝・胆・膵その他症例 ④	
15			15	6. 肝・胆・膵その他症例 ⑤	

2026 年度講義シラバス (11)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学		
講義題目	消化器内視鏡学実習 I - ①		必修/選択	必修	
担当教員	立石 敬介	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	2 単位 (前期 2)	履修年次	1 年		
テーマと目的	消化器内視鏡学の基本的な技術を習得する。				
講義計画	上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本技術を理論的に理解し、習得させる。				
達成目標	1. 消化器内視鏡の原理を理解する。 2. 上部消化管および下部消化管内視鏡の基本手技を習得する。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	消化器内視鏡の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	内視鏡モデル実習		1		
2	内視鏡モデル実習		2		
3	内視鏡モデル実習		3		
4	内視鏡モデル実習		4		
5	内視鏡モデル実習		5		
6	内視鏡モデル実習		6		
7	内視鏡画像特論 (I)		7		
8	内視鏡画像特論 (II)		8		
9	内視鏡画像特論 (III)		9		
10	内視鏡モデル実習		10		
11	内視鏡モデル実習		11		
12	内視鏡モデル実習		12		
13	内視鏡モデル実習		13		
14	内視鏡モデル実習		14		
15	内視鏡モデル実習		15		

2026 年度講義シラバス (12)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学		
講義題目	消化器内視鏡学実習 I - ②		必修/選択	必修	
担当教員	立石 敬介	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	1単位 (後期 1)	履修年次	1年		
テーマと目的	消化器内視鏡学の基本的な技術を習得する。				
講義計画	上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本技術を理論的に理解し、習得させる。				
達成目標	1. 消化器内視鏡の原理を理解する。 2. 上部消化管および下部消化管内視鏡の基本手技を習得する。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間				
成績評価法	出席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	消化器内視鏡実践の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	内視鏡モデル実習	
2			2	内視鏡モデル実習	
3			3	内視鏡モデル実習	
4			4	内視鏡モデル実習	
5			5	内視鏡モデル実習	
6			6	内視鏡モデル実習	
7			7	内視鏡モデル実習	
8			8	内視鏡モデル実習	
9			9	内視鏡モデル実習	
10			10	内視鏡モデル実習	
11			11	内視鏡モデル実習	
12			12	内視鏡モデル実習	
13			13	内視鏡モデル実習	
14			14	内視鏡モデル実習	
15			15	内視鏡モデル実習	

2026 年度講義シラバス (13)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学		
講義題目	消化器病総論Ⅲ- ①		必修/選択	必修	
担当教員	前畑 忠輝	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。				
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。				
達成目標	1. 基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2. 基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	消化管疾患の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	1. GERD と NERD ①		1		
2	1. GERD と NERD ②		2		
3	1. GERD と NERD ③		3		
4	1. GERD と NERD ④		4		
5	2. FD ①		5		
6	2. FD ②		6		
7	2. FD ③		7		
8	2. FD ④		8		
9	3. <i>H.pylori</i> 感染症 ①		9		
10	3. <i>H.pylori</i> 感染症 ②		10		
11	3. <i>H.pylori</i> 感染症 ③		11		
12	3. <i>H.pylori</i> 感染症 ④		12		
13	4. 潰瘍性大腸炎の治療 ①		13		
14	4. 潰瘍性大腸炎の治療 ②		14		
15	4. 潰瘍性大腸炎の治療 ③		15		

2026 年度講義シラバス (14)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学		
講義題目	消化器病総論Ⅲ- ②		必修/選択	必修	
担当教員	前畑 忠輝	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。				
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。				
達成目標	1. 基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2. 基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	消化管疾患の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	5. クロウン病の治療 ①	
2			2	5. クロウン病の治療 ②	
3			3	5. クロウン病の治療 ③	
4			4	5. クロウン病の治療 ④	
5			5	6. 胃がん治療(非外科的) ①	
6			6	6. 胃がん治療(非外科的) ②	
7			7	6. 胃がん治療(非外科的) ③	
8			8	6. 胃がん治療(非外科的) ④	
9			9	7. 大腸がんの治療 ①	
10			10	7. 大腸がんの治療 ②	
11			11	7. 大腸がんの治療 ③	
12			12	7. 大腸がんの治療 ④	
13			13	8. 抄読会 ①	
14			14	8. 抄読会 ②	
15			15	8. 抄読会 ③	

2026年度講義シラバス (15)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学		
講義題目	消化管病態学Ⅱ-①		必修/選択	必修	
担当教員	立石 敬介	担当教員連絡先	内線 3470		
単位数	1単位 (前期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	症例に基づいて消化管疾患の病態を理解する。				
講義計画	種々の消化管疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。				
達成目標	1. 基本的な消化管疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2. 消化管疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	上部消化管症例の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内容	(出席㊟)	後期(回)	内容	(出席㊟)
1	1. 食道疾患症例 ①		1		
2	1. 食道疾患症例 ②		2		
3	1. 食道疾患症例 ③		3		
4	1. 食道疾患症例 ④		4		
5	1. 食道疾患症例 ⑤		5		
6	1. 食道疾患症例 ⑥		6		
7	2. 胃・十二指腸疾患症例 ①		7		
8	2. 胃・十二指腸疾患症例 ②		8		
9	2. 胃・十二指腸疾患症例 ③		9		
10	2. 胃・十二指腸疾患症例 ④		10		
11	2. 胃・十二指腸疾患症例 ⑤		11		
12	2. 胃・十二指腸疾患症例 ⑥		12		
13	3. 小腸疾患症例 ①		13		
14	3. 小腸疾患症例 ②		14		
15	3. 小腸疾患症例 ③		15		

2026 年度講義シラバス (16)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学		
講義題目	消化管病態学Ⅱ-②		必修/選択	必修	
担当教員	立石 敬介	担当教員連絡先	内線 3470		
単位数	1単位 (後期1)	履修年次	2年		
テーマと目的	症例に基づいて消化管疾患の病態を理解する。				
講義計画	種々の消化管疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。				
達成目標	1. 基本的な消化管疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2. 消化管疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	下部消化管症例の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓜ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓜ)
1			1	3. 小腸疾患症例 ④	
2			2	3. 小腸疾患症例 ⑤	
3			3	3. 小腸疾患症例 ⑥	
4			4	4. 大腸疾患症例 ①	
5			5	4. 大腸疾患症例 ②	
6			6	4. 大腸疾患症例 ③	
7			7	4. 大腸疾患症例 ④	
8			8	4. 大腸疾患症例 ⑤	
9			9	4. 大腸疾患症例 ⑥	
10			10	5. 消化管その他症例 ①	
11			11	5. 消化管その他症例 ②	
12			12	5. 消化管その他症例 ③	
13			13	5. 消化管その他症例 ④	
14			14	5. 消化管その他症例 ⑤	
15			15	5. 消化管その他症例 ⑥	

2026 年度講義シラバス (17)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学	
講義題目	肝臓病態学Ⅱ-①		必修/選択	必修
担当教員	渡邊 綱正	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	症例に基づいて肝臓疾患の病態を理解する。			
講義計画	種々の肝臓疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な肝臓疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2. 肝臓疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。 			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	肝疾患症例の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	1. ウイルス性肝炎症例 ①		1	
2	1. ウイルス性肝炎症例 ②		2	
3	1. ウイルス性肝炎症例 ③		3	
4	1. ウイルス性肝炎症例 ④		4	
5	1. ウイルス性肝炎症例 ⑤		5	
6	2. 肝細胞がん症例 ①		6	
7	2. 肝細胞がん症例 ②		7	
8	2. 肝細胞がん症例 ③		8	
9	2. 肝細胞がん症例 ④		9	
10	2. 肝細胞がん症例 ⑤		10	
11	3. 代謝性肝炎症例 ①		11	
12	3. 代謝性肝炎症例 ②		12	
13	3. 代謝性肝炎症例 ③		13	
14	3. 代謝性肝炎症例 ④		14	
15	3. 代謝性肝炎症例 ⑤		15	

2026 年度講義シラバス (18)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学	
講義題目	肝臓病態学Ⅱ-②		必修/選択	必修
担当教員	渡邊 綱正	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	症例に基づいて肝臓疾患の病態を理解する。			
講義計画	種々の肝臓疾患症例を通して病態を理解し、治療・管理方法を検討する。			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な肝臓疾患について病態を理論的に説明し、治療・管理が計画できる。 2. 肝臓疾患難治例に対して基礎知識を応用し、病態理解および治療・管理が計画できる。 			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	胆膵疾患症例の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	4. 胆道系症例 ①
2			2	4. 胆道系症例 ②
3			3	4. 胆道系症例 ③
4			4	4. 胆道系症例 ④
5			5	4. 胆道系症例 ⑤
6			6	5. 膵疾患症例 ①
7			7	5. 膵疾患症例 ②
8			8	5. 膵疾患症例 ③
9			9	5. 膵疾患症例 ④
10			10	5. 膵疾患症例 ⑤
11			11	6. 肝・胆・膵その他症例 ①
12			12	6. 肝・胆・膵その他症例 ②
13			13	6. 肝・胆・膵その他症例 ③
14			14	6. 肝・胆・膵その他症例 ④
15			15	6. 肝・胆・膵その他症例 ⑤

2026年度講義シラバス (19)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学	
講義題目	消化器病総論 V- ①		必修/選択	必修
担当教員	高橋 秀明	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	1単位 (前期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。			
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1. 基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2. 基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	肝疾患の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓞ)
1	1. B型肝炎の新しい治療 ①		1	
2	1. B型肝炎の新しい治療 ②		2	
3	1. B型肝炎の新しい治療 ③		3	
4	2. C型肝炎の抗ウイルス療法 ①		4	
5	2. C型肝炎の抗ウイルス療法 ②		5	
6	2. C型肝炎の抗ウイルス療法 ③		6	
7	3. 肝移植 ①		7	
8	3. 肝移植 ②		8	
9	3. 肝移植 ③		9	
10	4. 劇症肝炎の治療 ①		10	
11	4. 劇症肝炎の治療 ②		11	
12	4. 劇症肝炎の治療 ③		12	
13	5. NASH ①		13	
14	5. NASH ②		14	
15	5. NASH ③		15	

2026 年度講義シラバス (20)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学	
講義題目	消化器病総論 V- ②		必修/選択	必修
担当教員	高橋 秀明	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	1単位 (後期1)	履修年次	2年	
テーマと目的	新規症例について検討し基本的な消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解する。			
講義計画	新規症例を通して消化器・肝臓疾患の病態を考案・理解し、管理方法および治療方針を検討する。			
達成目標	1. 基本的な消化器・肝臓疾患について病態を理論的に考案し説明できる。 2. 基本的な消化器・肝臓疾患の病態に基づいた治療・管理を計画できる。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間			
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	肝疾患の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	6. 自己免疫性肝炎 ①
2			2	6. 自己免疫性肝炎 ②
3			3	6. 自己免疫性肝炎 ③
4			4	7. 胆石治療 ①
5			5	7. 胆石治療 ②
6			6	7. 胆石治療 ③
7			7	8. 自己免疫性膵炎 ①
8			8	8. 自己免疫性膵炎 ②
9			9	8. 自己免疫性膵炎 ③
10			10	9. 急性膵炎 ①
11			11	9. 急性膵炎 ②
12			12	9. 急性膵炎 ③
13			13	10. 慢性膵炎 ①
14			14	10. 慢性膵炎 ②
15			15	10. 慢性膵炎 ③

2026 年度講義シラバス (21)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学	
講義題目	消化器内視鏡学実習Ⅱ-①		必修/選択	選択
担当教員	佐藤 義典	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	1 年	
テーマと目的	消化器内視鏡学の基本的な技術を習得する。			
講義計画	上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本技術を理論的に理解し、習得させる。			
達成目標	1. 消化器内視鏡の原理を理解する。 2. 上部消化管および下部消化管内視鏡の基本手技を習得する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	内視鏡手技の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	内視鏡原理 (Ⅰ)		1	
2	内視鏡原理 (Ⅱ)		2	
3	前処置 (Ⅰ)		3	
4	前処置 (Ⅱ)		4	
5	上部消化管内視鏡挿入 (Ⅰ)		5	
6	上部消化管内視鏡挿入 (Ⅱ)		6	
7	上部消化管内視鏡挿入 (Ⅲ)		7	
8	下部消化管内視鏡挿入 (Ⅰ)		8	
9	下部消化管内視鏡挿入 (Ⅱ)		9	
10	下部消化管内視鏡挿入 (Ⅲ)		10	
11	内視鏡画像特論 (Ⅰ)		11	
12	内視鏡画像特論 (Ⅱ)		12	
13	内視鏡画像特論 (Ⅲ)		13	
14	抄読会		14	
15	抄読会		15	

2026 年度講義シラバス (22)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学		
講義題目	消化器内視鏡学実習Ⅱ-②		必修/選択	選択	
担当教員	佐藤 義典	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	1 年		
テーマと目的	消化器内視鏡学の基本的な技術を習得する。				
講義計画	上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本技術を理論的に理解し、習得させる。				
達成目標	1. 消化器内視鏡の原理を理解する。 2. 上部消化管および下部消化管内視鏡の基本手技を習得する。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。1時間				
成績評価法	出席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	内視鏡手技の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	内視鏡原理 (Ⅲ)	
2			2	内視鏡原理 (Ⅳ)	
3			3	前処置 (Ⅲ)	
4			4	前処置 (Ⅳ)	
5			5	上部消化管内視鏡挿入 (Ⅳ)	
6			6	上部消化管内視鏡挿入 (Ⅴ)	
7			7	上部消化管内視鏡挿入 (Ⅵ)	
8			8	下部消化管内視鏡挿入 (Ⅳ)	
9			9	下部消化管内視鏡挿入 (Ⅴ)	
10			10	下部消化管内視鏡挿入 (Ⅵ)	
11			11	内視鏡画像特論 (Ⅳ)	
12			12	内視鏡画像特論 (Ⅴ)	
13			13	内視鏡画像特論 (Ⅵ)	
14			14	抄読会	
15			15	抄読会	

2026 年度講義シラバス (23)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学		
講義題目	消化器分子病態学Ⅲ- ①		必修/選択	選択	
担当教員	中原 一有	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	消化器・肝臓疾患に関する分子病態学を理解する。				
講義計画	消化器・肝臓疾患の発症機序・病態および治療を分子生物学的に、特に Genetic/Epigenetic な側面から検討する。				
達成目標	1. 消化器・肝臓疾患の発症機序・病態における Genetic/Epigenetic な因子の関与を理解し説明できる。 2. 消化器・肝臓疾患における免疫・抗体療法的作用機序を理解し説明できる。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	分子生物学知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	肝癌の癌遺伝子 (Ⅰ)		1		
2	肝癌の癌遺伝子 (Ⅱ)		2		
3	肝癌の癌遺伝子 (Ⅲ)		3		
4	肝癌の癌抑制遺伝子 (Ⅰ)		4		
5	肝癌の癌抑制遺伝子 (Ⅱ)		5		
6	肝癌の癌抑制遺伝子 (Ⅲ)		6		
7	発癌危険因子 (Ⅰ)		7		
8	発癌危険因子 (Ⅱ)		8		
9	発癌危険因子 (Ⅲ)		9		
10	発癌メカニズム (Ⅰ)		10		
11	発癌メカニズム (Ⅱ)		11		
12	発癌メカニズム (Ⅲ)		12		
13	発癌コントロール (Ⅰ)		13		
14	発癌コントロール (Ⅱ)		14		
15	発癌コントロール (Ⅲ)		15		

2026 年度講義シラバス (24)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学		
講義題目	消化器分子病態学Ⅲ- ②		必修/選択	選択	
担当教員	中原 一有	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	消化器・肝臓疾患に関する分子病態学を理解する。				
講義計画	消化器・肝臓疾患の発症機序・病態および治療を分子生物学的に、特に Genetic/Epigenetic な側面から検討する。				
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器・肝臓疾患の発症機序・病態における Genetic/Epigenetic な因子の関与を理解し説明できる。 2. 消化器・肝臓疾患における免疫・抗体療法の作用機序を理解し説明できる。 				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	分子生物学知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1			1	肝癌の癌遺伝子 (Ⅳ)	
2			2	肝癌の癌遺伝子 (Ⅴ)	
3			3	肝癌の癌遺伝子 (Ⅵ)	
4			4	肝癌の癌抑制遺伝子 (Ⅳ)	
5			5	肝癌の癌抑制遺伝子 (Ⅴ)	
6			6	肝癌の癌抑制遺伝子 (Ⅵ)	
7			7	発癌危険因子 (Ⅳ)	
8			8	発癌危険因子 (Ⅴ)	
9			9	発癌危険因子 (Ⅵ)	
10			10	発癌メカニズム (Ⅳ)	
11			11	発癌メカニズム (Ⅴ)	
12			12	発癌メカニズム (Ⅵ)	
13			13	発癌コントロール (Ⅳ)	
14			14	発癌コントロール (Ⅴ)	
15			15	発癌コントロール (Ⅵ)	

2026 年度講義シラバス (25)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学		
講義題目	消化器内視鏡学実習Ⅲ- ①		必修/選択	選択	
担当教員	佐藤 義典	担当教員連絡先	内線 3380		
単位数	1 単位 (前期 1)	履修年次	2 年		
テーマと目的	消化器内視鏡学の基本的な技術を習得する。				
講義計画	上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本技術を理論的に理解し、習得させる。				
達成目標	1. 消化器内視鏡の原理を理解する。 2. 上部消化管および下部消化管内視鏡の基本手技を習得する。				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間				
成績評価法	出席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	消化器内視鏡症例の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容	(出席Ⓞ)
1	内視鏡症例 (I)		1		
2	内視鏡症例 (II)		2		
3	内視鏡症例 (III)		3		
4	内視鏡症例 (IV)		4		
5	内視鏡症例 (V)		5		
6	内視鏡特論 (上部)		6		
7	内視鏡特論 (下部)		7		
8	内視鏡特論 (臍)		8		
9	内視鏡症例 (VI)		9		
10	内視鏡症例 (VII)		10		
11	内視鏡症例 (VIII)		11		
12	内視鏡症例 (IX)		12		
13	内視鏡症例 (X)		13		
14	抄読会		14		
15	抄読会		15		

2026 年度講義シラバス (26)

講義コード	※	専攻分野	消化器内科学	
講義題目	消化器内視鏡学実習Ⅲ- ②		必修/選択	選択
担当教員	佐藤 義典	担当教員連絡先	内線 3380	
単位数	1 単位 (後期 1)	履修年次	2 年	
テーマと目的	消化器内視鏡学の基本的な技術を習得する。			
講義計画	上部消化管および下部消化管内視鏡練習モデルを用いて消化器内視鏡の基本技術を理論的に理解し、習得させる。			
達成目標	1. 消化器内視鏡の原理を理解する。 2. 上部消化管および下部消化管内視鏡の基本手技を習得する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書 Molecular Biology of The Cell, Bockus Gastroenterology の関連領域を読んでおくこと。 1時間			
成績評価法	出席と講義内での受講態度および技術習得による総合評価とする。			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	消化器内視鏡症例の知識に基づいて、自身の研究を遂行し、論述する能力を習得する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席Ⓞ)	後期(回)	内 容 (出席Ⓞ)
1			1	内視鏡症例 (Ⅰ)
2			2	内視鏡症例 (Ⅱ)
3			3	内視鏡症例 (Ⅲ)
4			4	内視鏡症例 (Ⅳ)
5			5	内視鏡症例 (Ⅴ)
6			6	内視鏡特論 (上部)
7			7	内視鏡特論 (下部)
8			8	内視鏡特論 (臍)
9			9	内視鏡症例 (Ⅵ)
10			10	内視鏡症例 (Ⅶ)
11			11	内視鏡症例 (Ⅷ)
12			12	内視鏡症例 (Ⅸ)
13			13	内視鏡症例 (Ⅹ)
14			14	抄読会
15			15	抄読会